

東京女子大学大学院博士前期課程

2026年度外国人留学生

入学試験問題

人間科学研究科 人間社会科学専攻

グローバル共生社会分野

専門科目(解答用紙2枚)

日本語(小論文)(解答用紙2枚)

東京女子大学大学院(博士前期課程)

2026 年度 入学試験 一般 1 月期・外国人留学生

人間科学研究科 人間社会科学専攻 グローバル共生社会分野 専門科目 試験問題 1/1

以下の問題から2題を選んで解答しなさい。解答にあたっては1題につき1枚の解答用紙を用い、選択した問題の番号を冒頭に明記すること。

【問題1】国際刑事裁判所(ICC)の管轄権とその問題点について、具体的事例に触れながら論じなさい。

【問題2】2001 年、中国は世界貿易機関(WTO)に加盟した後も「途上国」としての立場を維持していた。しかしながら、今年の 9 月、「途上国」として関税等に関する優遇措置を受ける立場を放棄することを表明した。なぜ、このような方針の転換をしたのか。理論的な観点から説明しなさい。

【問題3】日中関係の「4 つの基本文書」について、概要を説明した上で、その果たしてきた役割をあなたの関心のある事例に即して論じなさい。

【問題4】参与観察とは何か、他の調査方法との違いを踏まえ、具体例をあげながら論じなさい。

【問題5】幼児期の平和教育は「大人が伝えたいことを優先するのではなく、子どもの心の発達や気持ちを第一に考えた伝え方が重要」であり、「リアルな映像や悲惨な絵本などを与えることは、もっと大きくなってからでも遅くないだろう」という指摘がある(瀧口真央「幼児期の平和教育」より)。この瀧口の指摘は幼児期の平和教育について述べられたものだが、幼児期に限らず戦争の教え方一般に当てはめた場合、戦争について教える際の問題点・留意点とそれに対する工夫・試みにはどのようなものが考えられるか。根拠を示しつつ、具体的な実践の工夫について論じなさい。

【問題6】次の5つの用語から想起されるグラフを1つ作成し、これらの5つの用語をすべて用いてそのグラフを説明しなさい。
ただし、次の用語をはじめて用いるときはそれに下線を付すこと。

長期平均費用曲線 規模の経済 限界費用価格形成 自然独占 赤字

【問題7】世界経済における基軸通貨としての米ドルの地位が揺らぎつつあるとの指摘がある。基軸通貨が果たす役割を通貨の基本機能、すなわち、計算単位、交換手段、価値貯蔵の3つの観点から論じた上で、米ドルの位置づけにどのような変化があるのかを説明しなさい。

【問題8】社会学における調査の方法を1つあげ、具体的な事象に即して、その方法のメリットとデメリットを説明しなさい。

【問題9】現代社会における家族変動の主要な側面について、社会学的諸概念を用いて論述しなさい。

【問題10】コミュニティにおけるジェンダー問題の例をひとつあげ、①問題の核心はなにか、②なぜそれが問題となるのか、③自分の研究課題からその問題には、今後どのようにアプローチできそうか、を説明しなさい。

東京女子大学大学院(博士前期課程)

2026 年度 外国人留学生入学試験

人間科学研究科 人間社会科学専攻 グローバル共生社会分野 日本語(小論文) 試験問題 1/1

問 以下の文章を読み、内容を簡潔にまとめた上で、この文章に対するあなたの考えを自由に述べなさい。

「文明開化」期の日本——そこでは、当時の「西洋」から、様々なものが急速に導入されました。蒸気機関・電信機・馬車・懐中時計・灯台などの器具・機械・装置、また、洋髪・洋服・靴・髭・ステッキなどの風俗といった、眼に見えるものだけではありません。制度・組織、そして、それらを支える思想や概念という、眼に見えないものまでも採り入れられました。当時の西欧と北米の人々がその思考の基礎とし、枠組みとしていた観念さえも、摂取しようとしたのです。

まったくの異文化の、まったく異なる歴史の中で形成されてきた概念や観念の採り入れ——それは、至難の業です。しかし、日本人は、それによりかなり成功したようでした。間もなく、日本人はそれらを示す訳語(らしい語)を自分のものとして議論し、思考し始めたのです(その影響は、中国や朝鮮にも及びました)。驚くべきことです。いかにしてそれを可能にしたのでしょうか。また、受け止めきれない面はなかったのでしょうか。

しかも、その後、それらの訳語(らしい語)を用いて、日本の文化・学問・思想が展開してきました。それらは、どこまで元の概念と等価でしょうか。どの程度、独自の日本的な概念になっているのでしょうか。

本書は、このような疑問に、いくらかでも答えようという試みです。

具体的には、欧州で形成された、特に政治に関わる基礎概念のいくつかについて、それらが、元来はいかなる内容なのか、そして、それらを示す単語が日本ではいかに説明され訳されたのか、そして、定着した訳語はその後どういう意味を持っているのか、について、現在の私の理解を述べます。

やや似た本も既にあります。例えば liberty や right の訳語としてどのような在来の日本語が利用され、あるいはどのような造語が試みられたか、を紹介した本があります〔中略〕。訳語調べは、無論、それはそれで興味深い。しかし、それだけでは不十分だと思います。

第一の問題は、西洋の概念の内容が、往々、自明あるいは既知だとされていることです。そのため、例えば「現在のわれわれが「自由」と言えば、liberty の意味である。当然、われわれは liberty が何かは知っている。しかし、幕末・明治の人々はその理解に苦しみ、苦しみながら様々な訳語を工夫した」といった語り口になります。

それで良いのでしょうか。現代のわれわれは彼らの接した西洋の概念を十分に理解している、その意味など、無論、先刻承知である——その前提は、確かでしょうか。

訳語の理解は、まずその原語の意味(とりわけ 19 世紀後半における)の解析から出発すべきだ、と私は考えます

西洋語の意味は、西洋人自身に聞けばすぐにわかるではないか、と思われませんか。

しかし、西洋人にとっても、その意味は必ずしも自明ではありません。語の意味は、その語を母語とする人に聞けばわかるというものではありません。それは、自転車を乗りこなしていても、なぜそうできているのかを説明できないことと、やや似ています。語の意味の構造と含意の深さや広がり、その語を使用しているとしても簡単に自覚できるものではありません。まして異言語の話者にわかるように説明するのは容易ではないのです。

しかも、西洋人自身は彼らにとって自明な前提については説明しません(往々、できません)。しかも、西洋の学者、とりわけ西洋を研究している学者は、非西洋の思想や文化に無知なことが多く、その意味で、その文化の中に閉塞しています。それは、非西洋の人々の多くが、ここ数世紀における西洋の圧倒的な影響の下、多少とも(バイリンガルでないとしても)バイカルチュラルになっているのと大きな違いです。そのため、西洋の学者は、西洋文化を形造っている基礎概念の、非西洋の諸概念にはない特異性を意識せずに、その概念をめぐって議論しています。それ故に、例えば彼らの「自由論」を読めば、「自由」の意味が、非西洋人にも明晰かつ十全にわかるというものではないのです。

東京女子大学大学院（博士前期課程）
2026 年度入学試験 外国人留学生
人間科学研究科 人間社会科学専攻 グローバル共生社会分野

外国人留学生（グローバル共生社会分野）

【専門科目】

出題のねらい

グローバル共生社会分野を構成する 5 領域（グローバル社会領域、地域共生・平和共生領域、共生経済領域、共生社会領域、グローバルジェンダー領域）をカバーする問題を広く出題し、出願領域の問題を含む複数問題の選択回答（2 題）を求めることで、大学院で学ぶために必要な概念的・理論的、方法に関する基礎知識、社会状況に関する適切な理解、論理的思考力・論述力の有無を確認することをねらいとしている。

【外国語科目（英語・日本語）】

出題のねらい

英語Ⅰ：一般的なテーマを扱った英文を素材とし、大学院での学びに必要な英文読解力の有無を確認する。

英語Ⅱ：アカデミックな英文を素材とし、大学院での学びを一定水準で行える英文読解力の有無を確認する。

日本語（小論文）[外国人留学生入試]：一般的なテーマを扱った日本語文章を素材とし、大学院での学びに必要な日本語読解力および日本語論述力を確認する。

※外国語（日本語）[一般入試 1 月]と日本語（小論文）[外国人留学生入試]は、同一問題で行ってきました。